

被爆体験講話

7月4日(火)永井徳三郎さんをお招きし、永井徳三郎さんの祖父や父の被爆体験を聞かせていただきました。

永井徳三郎さんは、長崎医科大学研究室で被爆した永井隆さん(1951年ご逝去)のお孫さんにあたります。永井隆博士は被爆のため大けがを負いながらも、救護所を開設し原爆被爆者の救護にあたられた方です。原爆被爆による体調不良により療養のための庵「如己堂」を建築され、亡くなるまでの3年間、精力的に執筆活動を行われています。「長崎の鐘」や「この子を残して」等の著書があります。下の写真は『如己愛人』という永井徳三郎さんが紹介された言葉です。



『如己愛人』には、「己の如く隣人を愛せよ」という意味があるそうです。本校の校訓である「自愛」(自分を大切に、相手も大切にする)にもつながるものがあると思います。

現在、世界ではウクライナ以外でも争いが絶えません。多くの罪もない人たちが戦争のため亡くなっています。私たち長崎に生まれた者は、原爆の悲惨さだけではなく平和の大切さも訴え続けていく必要があると思います。

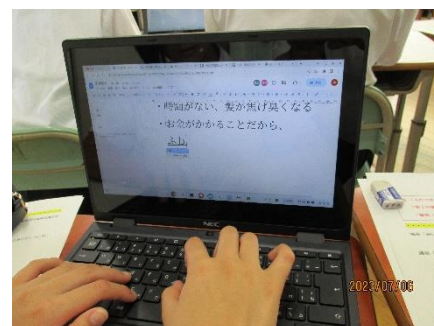
生徒総会

本年度の生徒総会は昨年度に引き続き、リモートで行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染症がⅡ類からⅤ類に移行したため、体育大会をコロナ前に戻すなど、多くの行事を以前のように実施しましたが、生徒総会はクロームブックを使って行うため昨年通りで実施しました。

1枚目の写真は教室のようです。生徒会役員がいる情報室と生徒がいる各教室をズームでつないでいます。



2枚目の写真は、クロームブックを使って、発言内容を打っている様子です。生徒の意見がリアルタイムで集計できて大変便利です。



3枚目の写真は、生徒会役員です。生徒総会まで、準備を入念に行いこの日を迎えました。



生徒会役員のみなさん大変お疲れさまでした。リモートが不調になることもあり、今後、改善できることを検討する余地があります。